

第5回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、みえの学力向上県民運動の総括を行うとともに、今後の方向性等について協議がなされました。
協議では、「子どもの問題は、大人の問題である。」「結果ではなく、プロセスをほめる。」等の意見が出されました。

1 日時 平成28年3月9日（水）13時30分～15時00分

2 場所 三重県総合博物館M i e M u レクチャールーム（津市一身田上津部田 3060）

3 内容

（1）三重県教育委員会事務局からの報告事項

- ・みえの学力向上県民運動の総括について

（2）今後のみえの学力向上県民運動の展開について推進会議で出された主な意見

- ・大人の油断した行動が、子どもの可能性をつぶしてしまう。大人みんなが気を引き締めなければならない。子どもの問題は、大人の問題。私たち大人が一日たりとも油断をせず、気を引き締めて取り組まなければならない。
- ・子どもの問題は、大人の問題である。例えば、大人が本を読んで、思ったことを子どもに話したり、スマホを自己管理しながら使ったりしている姿を見せる。
- ・スマホの使用について、禁止は現実的ではない。子どもたち自身が、使用のルールを考え、大人が子どもの自己管理能力を育てる指導をする良い機会と捉える。
- ・プロセスをもっと大切にしていける教育が必要である。目的に応じて、スマホと本を使い分ける姿や、大人が本を選び、感想を伝え合う姿を幼児の頃から見せていく。
- ・結果ではなく、プロセスをほめ、子どもたちに自信を持たせる。
- ・がんばっていることをほめれば、子どもたちが「やれば出来る。」という自信を持つ。ほめて育てることで、強みを生かし、弱点を改善していく。
- ・教科の知識（認知的能力）だけでなく、やる気や意欲などの情意（非認知的能力）がクローズアップされている。この基盤が無いと学びのスイッチが入らない。そのためには、具体的な強みを生かしていく指導がこれから重視されていく。
- ・父親も子どもの教育に積極的に参画していく。
- ・子どもたちに必要なのは社会性の向上である。インターンシップ等、企業の中に入る体験や、子どもが親の働いている姿を見る経験が有効である。
- ・平成32年に学習指導要領の改訂がある。コンセプトは「社会に開かれた教育課程」で、今の問題意識とつながる。教科の学習が、社会とどのようにつながっているのかについて学校で早くから取り組んでいくべきである。
- ・学校・地域の互いが、子どもを共に育てるという意識を持つ。そのためにも、行政や学校は地域と一層、連携していく必要がある。
- ・学校は授業改善に向けた取組（校長の授業の見回りや、めあて・振り返りの実施等）について、質、量ともに充実を図っていく。
- ・子どもの貧困の問題もあり、個々の子どもたちを丁寧に見ていくことも必要である。